見直そう！宣教・教会活動

広島復活教会ホームレス支援

司祭　オーガスチン　小林尚明

広島復活教会では、昨年の8月から教会隣接の公園でホームレスの人たちへの炊き出しを行っています。その経緯と活動についての報告を少しまとめてみました。

反省と学び

近年、日本聖公会では信徒の減少、教会の活動の低迷が言われています。

この状況の打破を願って、昨年、復活教会の努力目標を「福音宣教と教会の働きについて学び、教会の活動を見直す」に決めました。

まず百瀬文晃神父の著書「キリスト教の原点」を信徒の方々と共に読み、百瀬神父ご自身にもお越し頂き、「福音宣教と教会の働き」について研修会を開き、「教会は希望を語らねばならない」ことを学びました。

また1988年、ランベス会議報告書を読み返して、教会の宣教が福音伝道だけでなく、「人のニードに愛の奉仕をもって仕えること。社会の不公平な機構を改革するように努める事」とあるのを発見して、それが大きな学びとなりました。

2月28日の炊き出し会。人たちの向こうが広島復活教会。

夜回りの会

この会は、正式名称を「野宿労働者の人権を守る広島夜回りの会」と言い、ホームレスの人たちへの支援組織です。その代表を、広島平和礼拝や、カトリックと聖公会合同の巡礼旅行のお世話をしてくださった肥塚俥司神父（カトリック広島司教区付）が務めておられ、私も昨年1月からお手伝いをさせていただいています。

韓国スタディ・ツアー

昨年6月、管区主催の韓国スタディー・ツアーに参加し、大韓聖公会の地域宣教の活動を見学しました。

そこで「いと小さき者に仕える」事こそ、教会がなすべき宣教であると学び、「タシソギ（再起）・センター」でのホームレスの人たちへの給食奉仕に参加しましたが、その給食（ビビンバ、味噌汁など）のおいしさに驚かされ、広島で配っているおにぎりがみすぼらしく感じてしまいました。

アットホームで笑顔溢れる炊き出し会でした。

炊き出しスタート

今年も肥塚神父の指導により、五島列島の巡礼に参加しましたが、その反省会の場で、韓国での体験を紹介し、夜回りの会より、もっと美味しい食事を提供できないかとお話ししました。

それではひとつやってみますか、ということになって、8月30日(日)から、この炊き出しがスタートしました。

ですから、この活動の最初の奉仕者は、五島列島巡礼に参加したグループです。

そして、1回目はカレーライスを提供する事にして、チラシを夜回りの会の人たちにも手伝ってもらって配り、約65人が来られました。

想定外の協力

これは想定外だったのですが、近所から苦情がきてはいけないということで、近隣マンションにチラシを持って行き、ご理解を求めたのですが、「どこから資金が出ているのか」と尋ねられ、「信徒の募金です」と言うと、「私も寄付させてください」と献金された方、また当日、エプロン持参で「こういう活動に興味があります。手伝わせてください」という方も現れました。

さまざまな人々の活動と共に

こうした活動で、ホームレス問題が解決するのかという批判もあるかも知れません。

しかし、こうした支援は、夜回りの会だけでなく、さまざまな人たちも活動しており、その中にあって、私たちクリスチャンが出来ることを少しでも行うことが大切なのではと考えています。

ただ、復活教会の宣教活動は、この他にも日本キリスト教海外医療協力会への使用済み切手収集送付。アルディナウペポ（東アフリカの子どもを救う会）への協力、高齢者施設への奉仕などがあります。そうした活動の延長線上にこのホームレス支援もあるのです。（広島復活教会牧師）

教会横の公園でメニューはカレーライス

春の気配が感じられる2月28日、復活教会横の上幟町公園を会場に、60人余りの路上生活者が集まり、炊き出し会が行われました。

今回のメニューはカレーライス。過去3回の経験が生かされ、手際のよい準備で、また参加者自身も手伝い、支援する・されるという状況から一歩踏み込んだ、アットホームな「食事会」が開かれました。

この関係は、定期的な炊き出しの（3ページ下へつづく）

明石マリア・マグダレン教会 宣教拠点新装成る

2月13日(土)午後1時から、中村豊教区主教の司式により、明石聖マリア・マグダレン教会の会館・牧師館落成式が行われました。また、建築施工された木村誠氏、建築アドバイザー宮脇眞壽氏に感謝状が贈られました。

落成式には教区内はもちろん、北関東教区からは、草津のハンセン病救済事業に多大な貢献をされたコーンウォールリー師を覚え、広田勝一主教、松浦信司祭など、教区外からの来賓もあり、参列者は110人でした。

教区内外から110人の参列者が集まり、落成を祝いました。

落成式に続き、そのリー師の名を冠した会館、さらに牧羊幼稚園設立者であるシェパード師の名を頂いたホール、そして、牧師館が参列者に公開されました。

その後、園舎で祝賀会開催。中村主教の「新施設を宣教拠点として頂きたい」との挨拶をはじめ、北関東教区の広田主教や松浦司祭、コーンウォールリー師関係者、また、西川正文司祭や明石教会の歴代牧師と家族、そして伝道区内信徒から数多くの祝辞が述べられました。少年時代を明石で過ごした八代智司祭は、「旧牧師館は自分の少年時代、すでに友人から『お化け屋敷』と呼ばれていた。それが今は教区随一お洒落な『異人館』です」と、落成のお祝いを述べられました。

牧師の原田佳城司祭は、「すでに会館ホールを利用した聖書研究会、キリスト教入門講座などを開始。ことに、保育中の園児を待つ保護者を対象にして聖書講話を始めたところ、多くの参加者を得ていることを励みに思っている」と述べ、また、婦人会長の東邨弘子姉は、「教会行事の際、今まで幼稚園に迷惑をかけて心苦しかったが、これからは思う存分に色んなことを計画して行きたい」と、それぞれに喜びと意欲を語られていました。

会館・牧師館　全景

祝賀会は、角瀬克己司祭とオリアナ・コンソルテの演奏が華を添えるなか、和やかに進み、最後に、司会の大東康人教会委員が、参列者への謝辞と共に、建築献金目標達成のために教区の皆様の協力を続いて仰げれば感謝ですとのお願いを述べられて、午後4時に閉会しました。（小南　記）

（2ページからのつづき）

開催や夜回りなどから得られたもので、私の知る限り、これほど和やかで暖かさを感じる集いはありませんでした。

路上生活の現実は厳しく、参加された多くの方は、職に就けない土・日には、食事も満足に摂れず、もっと会を開いて欲しいと要望されていました。

また嬉しい事は、毎回多数の中高生たちが奉仕してくれていることです。彼らは、楽しく、よい経験で今後も続けていきたいと語っていました。

（坪井　記）

神戸教区婦人会　黙想会開く

今、何を為すべきか？

2月23日(火)～24日(水)、カトリックの『宝塚黙想の家』で、教区婦人会の黙想会が開かれました。婦人会も、年とともに高齢化が進んでいます。そこで、今一度、原点に立ち返るべく、大斎節に当たり、静かに「今、私たちに何が求められているのか。今、私たちは何をするべきなのか」を神さまから聴く時間を持つ必要を感じ、初めてこのような会を企画したとのことです。

黙想会には、神戸教区の11教会から25人が集まり、山野上素充司祭（大阪教区守口復活教会牧師）に黙想指導をして頂き、米子聖ニコラス教会の澄田悦子さんから『婦人会－今と昔－』のテーマでお話をして頂きました。

山野上司祭は、黙想指導の中で、ご自身の人生を振り返りながら、「私は神さまからお預かりした命を、終わりの時に感謝してお返しすることができるようにしたい。神さまはそのために私たちを生かし、導いてくださっている」と語られ、澄田悦子さんも、ご自身の経験から「教会で、女性でなければできない働きとは？」と、問いかけられました。

参加者は、「生かされている」こと、そして「いつかはこの命をお返しする」をとおして、「今、私たちがすべき事はなにか？」ということを想い巡らせていました。（中原　記）